

### 33 障害者のニーズに基づいた衣料に関する調査

～着たい服がどこでも手に入るように～

研究所 小野栄一 筒井澄栄

病院 富岡佳代、堤 美穂、田嶋千秋、浅野美子、泉谷義明、道木恭子、  
赤川詠子、多田由美子、溝口尚美、田村玉美、看護部一同  
文化服装学院 伊藤由美子、高見澤ふみ、中込美代子、足立美智子

#### 1. 背景と目的

バリアフリーやユニバーサルデザインの言葉が一般にも馴染みはじめ、多少の障害があっても外出しやすい環境が徐々に整いつつある。一方、病気、事故や高齢により体型が変化したり手足や腰の動きが悪くなり好きな服を着られない人、衣料で困っている人がいるという状況が存在している。高齢者や障害者の衣服のファッションショーがときに開催されるが、その成果がなかなかビジネスにつながらず、相変わらず衣生活で困っている方々がいる。

この原因は、衣料を作る側、供給する側がその課題に気がついていないか、気がついていても障害についてあまり知らず、必要とする人がどの程度いるかも不明で、どのように対応すべきかがわからず、ビジネスとしての見通しが立ちにくく、手を出しにくいからである。

その状況を打開し、北海道から沖縄まで日本のどこにいても誰もが、着たい服を手に入れやすい環境の構築を促進することが目的である。

#### 2. 過程

2011/4/26

- 5月：小野が看護部長に「衣服で困っていることがありますか」と伺ったところ(5/10)看護師の方々より、ファッションショーを開催してはどうか(5/19)という提案があった。また同時期、小野が文化服装学院の先生に声をかけられ(5/23)、小野から国リハに協力して頂きたいと相談し快諾いただけた。看護師さんらから具体的な提案や希望が出された(5/31)。
- 6月：その提案をもとに文化服装学院で製作対象の検討をし、看護師さん立ち会いで計測・衣服試着を行うなどの条件で倫理審査委員会に提出した。
- 7月：文化服装学院の先生が来所し、看護部で打ち合わせを行い(7/11)、実物製作は、①デニムのパンツ、②ビジネススーツ、③ブラックスーツ、④レディスセミフォーマルウエアの4着の製作課題を決定。①②は、手動車いす利用者、③は電動車いす利用者、④は下肢装具利用者である。
- 8月：倫理審査委員会の了承結果通知有り。計測(3名)。
- 9月・10月：計測(1名)、仮縫い、実物仮縫い。国際福祉機器展にて取組みの案内
- 11月：実物仮縫い。コーディネート検討。ファッションショー準備
- 12月：実物仮縫い。ファッションショー準備、21日リハーサル、22日ファッションショー

今後、さらに実例と調査を積み重ね、情報発信し、目的の遂行に繋げる。(文責：小野)